

「ヤマガラ営巣開始! (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

カラ類の世界では、慢性的な住宅難で、人工的な巣箱での営巣率は、都会でも山間地でも非常に高い。



私の過去の経験では、2004年からの観察で、営巣しなかった年は一回もなく、毎年何らかの野鳥が子育てを行っている。ほとんどがシジュウカラだが、北軽井沢の巣箱の場合、時々ヤマガラも入る。写真は2009年のヤマガラの子育ての様子だ。シジュウカラもヤマガラも一度に8~10羽のヒナが同時に育つ。しかし、自然の営巣も、人工巣箱での営巣も、かなりの高確率で、ヘビの被害に遭う。巣立ち後にフクロウなどの猛禽類の餌食になる者も多い。



今朝の北軽井沢は寒かったが、朝から昨日の続きの「巣作り作業」をするヤマガラの姿が見られた。巣草を運び込んで外に出る時は、必ず周囲を警戒する。



この日は、午前も午後も盛んに巣草(主にミズゴケ)を運び込んでいた。巣箱口に近い位置にたくさん敷き詰めているのがわかる。これは巣箱口になるべく遠い場所に卵を産んで温める「産座」を造る為だ。



午後2時過ぎ、どうやら産座の形が完成して、一旦「座り心地」を確かめたようだ。ここまでくれば、巣を放棄する心配は少ない。



一番心配なのは「巣の乗っ取り」である。写真は、ヤマガラ(右)とシジュウカラ(左)の大喧嘩の様子だ。このように他種の野鳥による「巣の乗っ取り」は、決して稀なことではないのだ。